

本宮町



しきいしじゅうきょあと
敷石住居跡（本宮町大字高木字高木地内）

今からおよそ3,500年前の縄文時代後期に作られた家の跡で、室内のすべてに平らな石が敷き詰められています。石の大きさは、100cm×60cm位のものから10cm×10cm位のものまであります。高木地区で13棟発見されました。

川のそばでよく発見されますが、家の形や石を敷いた理由はよく分かっていません。